

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念は掲げているが、事業所独自の理念は作られていない。綱領唱和は会議時に行われ、地域密着型サービスの役割を考え、地域との関わりもあるホームであるが、地域密着型サービスとしての理念が作られていない。	○	事業所の理念は、介護保険法改正に伴い地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になっていることが求められる。職員全体で、地域密着型の意義を確認し地域生活の継続支援と、事業所と地域の関係性強化をうたった理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人内での会議、毎日のミーティング、職員会議の中で管理者や職員が共に意識しながら話し合い、利用者が安心してその人らしい生活ができるホーム作りに取り組んでいる。		日々の中で管理者と職員が何を大切に利用者に向き合うか、共に意識しながら話し合いが行われているので、早期に事業所独自の理念を作ってほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の婦人会、子供会の訪問、毎朝の散歩、夏祭り、家族参加型の行事(居酒屋さつき等)や地域での買い物を行うなど、地域との連携や交流がある。散歩では、地域の方からの声掛けがあったり、花や野菜を頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程、評価の意義について、職員は理解しており、サービスの質の向上に取り組んでいる。外部評価の結果も職員会議等で話し合い、改善に向けて具体案の実践につなげるために結果を回覧する等、改善できることはすぐに取り組む努力している。		

宮崎県三股町 グループホーム2ユニットさつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、公民館長、民生委員、市町村関係者、家族、職員の代表がそろいサービス向上のため取り組んでいる。ホームの活動・状況報告や評価の報告と取り組み方等を話し合っている。地区の消防団の協力が得られるなど効果を上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は、常に代表者が取り、ホームの現状や事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題を担当部署へ出向いたり、電話にて相談しながら一緒に解決を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の便りの中で利用者の近況を知らせたり、家族参加型の行事、家族会、家族の訪問時等に詳細に伝えている。遠方の家族には、電話で丁寧に報告している。金銭管理は家族の訪問時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会では、家族同士で話し合ってもらう時間を取り、意見や苦情等を代表者から伝えてもらっている。年3回、家族参加型の行事を開催し、公民館長、民生委員、市町村関係者の参加もあり、家族からの要望・意見をホーム側はサービスに生かしている。		職員が集まり家族から得られた意見等をサービスに反映させていく具体的な取り組みについて共有されているが口頭伝達である。不適合対応シートが作成されているので、記録で残してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者への影響を最小限に抑えるため、新規職員に対してコミュニケーションのとり方や利用者一人ひとりのサービス提供について早期習得を行っている。また、利用者の個性を尊重したあいさつ等を行い、利用者からホームのことを教えてもらえる誘いの言葉を掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、自主学习や月1回の職員会議・法人内での会議等で勉強会、復命報告を行っている。外部研修にも積極的に参加し認知症についての知識・技術を身につけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入し参加している。他のホームに出かけ、運営の仕方やサービス提供記録のあり方等の勉強会を通して、ホーム以外の職員の意見や経験をケアに生かし質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、入居前の相談、諸手続き等に来てもらい職員やホームの雰囲気徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理をせず、楽しいサポートを心がけ、「教えてください」と誘いの言葉を掛けている。日ごろの関わりの中で特に趣味や特技、農作業、家事は経験豊かさを発揮できる場面なので共に寄り添う関係をつくっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報や、日ごろの利用者の様子、利用者同士での会話、訴え、家族の思いを聴き取り、職員全員が「本人はどうしたいのか」という視点を持ち把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は全職員で検討し取り組んでいる。担当職員が利用者・家族から習慣になっていること、自分らしい生活をするための意見を聞き、本人の思いや意見を記入した似顔絵を描き、職員会議で検討している。家族からの意見が出やすいように日常生活が分かる便りを送ったり近況報告の電話をし作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しを行っている。見直しにあたっては、担当職員は利用者・家族の意向をくみ介護計画に反映させている。サービス提供記録も、より利用者の姿がみえるように変更し、介護計画に連動していくようにしている。利用者に変化が生じた場合は新たに介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して継続できるように利用者・家族の状況に応じて臨機応変に担当職員が通院や特別な外出（墓参り、自宅帰省）等の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、利用者・家族の希望で家族同行の受診となっている。不可能な時には職員が代行している。協力医療機関より定期的な往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は、利用者・家族の希望する方向で話し合っている。これまでに重度の利用者のケアは経験している。終末期における医療の処置や緊急時の対応と、状況に応じた方針や支援の具体的内容等は職員間で話し合い共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけない、プライバシーを損ねることがないように日常的に確認を行い、利用者の部屋に入る時は声掛けをしている。職員会議やミーティングの折に、利用者との日々の関わり方、個人情報保護法の理解に努め、職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースに合わせた暮らしを守り、利用者が希望した時間や内容に応じて支援し、無理をせず楽しいサポートを行っている。個別性を尊重し、その日の計画に拒否があっても無理強いをすることなく、時間を掛けて話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をするまでの一連の過程を楽しみながら、利用者個々の力を生かし、職員と一緒にやっている。近所からの頂き物や菜園で取れた野菜を調理したり、静かな音楽が流れる中、利用者と職員が食卓を囲んで同じものを食べて、楽しく食事できる雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間、回数、順番は、利用者の希望に合わせて対応している。入浴拒否のある利用者には、何回も言葉かけや対応の工夫と職員同士の共有化でくつろいだ入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、職業歴、習慣等を本人や家族から聞き、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。利用者が散歩、調理、洗濯物たたみ、縫い物、大正琴、演歌、読書、日記帳付け等、日常生活の中で活躍できる場面があり、共に職員が寄り添っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の状況にもよるが、利用者に合わせて移動の配慮をしながら、ほぼ毎日のように近隣の散歩を行っている。またドライブ、外食、特別な外出(墓参り・自宅帰省)の支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵を掛けることの弊害を理解している。職員が少なく、忙しい時間帯に利用者が出かけようとする行為がある時、必要に応じて施錠している。利用者、家族には説明しており、見守りが可能な限り鍵は掛けない。		

宮崎県三股町 グループホーム2ユニットさつき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と共に避難訓練を実施している。運営推進会議に議題を提出して、地区の消防団の協力を得るなど、地域にも訓練についての文書を事前配布して協力依頼をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録し職員が把握している。職員は利用者と一緒に食事をする時は、様子観察をしながら柔軟に支援をしている。栄養が不足している場合には、利用者に応じた代替食品や飲料を補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は、安らぎ、居心地よく過ごせるように季節感を取り入れた掲示物や生花が生けてある。透明のテーブルクロスの下には折り紙で折られた季節の花が敷かれていた。光や音については、利用者に合わせて調整してあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の居室の環境作りは、いままでの継続した生活が送れるように使い慣れたなじみの家具、仏壇、思い出の写真等が利用者や家族と相談されて、居心地よく配置されていた。		

※  は、重点項目。